2019年度名古屋学芸大学健康・栄養研究所　研究・実践報告

■研究・実践の課題（テーマ）

食アレルギーや食文化におけるユニヴァーサルデザイン的配慮を踏まえた国際ピクトグラムの研究−その4−

■主任研究者　川原啓嗣

■共同研究者　尹成濟、伊藤章宏、高津ゆい

■研究・実践の目的、方法、結果、考察や提案等の概要

2020年に開催される東京オリンピック・パラリンピックまでに訪日外国人観光客数を年間4000万人に増やす政府目標が掲げられており、競技施設だけでなく周辺の駅や道路環境をユニヴァーサルデザインの考えで整備すると安倍首相も明言しているが、駅コンコースにおける誘導サインの見直しや多言語表示などの方針が出されているものの、観光客が滞在する宿泊施設やレストラン等飲食店における受け入れ体制はまだまだ未整備である。

本研究では「食のユニヴァーサルデザイン」からのアプローチとして、食事を提供するホテルや旅館、そして街中のレストランや居酒屋での、言語の異なる様々な外国人とのコミュニケーションにおいて有効なピクトグラム（絵文字）の研究開発と国内外の関係機関の協力で行うアンケート調査（ネット調査）による検証を通して、空港や駅に設置された観光案内所やインターネットのホテル・レストランガイドラインでも活用され、飲食店の看板やメニューにも利用できるピクトグラムの国際モデルを提案することが目的であり、その結果として外国人だけでなく障害者や高齢者を含め広く一般の市民にも喜ばれる生活環境づくりに貢献できれば幸いである。

方法：

昨年度までの研究を踏まえ、2019年度は、「宗教・文化」「アレルギー」に対応するピクトグラムの制作をした。ピクトグラム制作を進める上で、「叙述的」「命令的」「示唆的」の3つの要素に注目した。「叙述的」とは受け手に情報を与えるのみで、行為自体の権利は受け手にある。「命令的」とは、受け手の行為へ影響を及ぼすものである。「示唆的」とは、感情に訴える事で受け手を無意識にある一定の行為へ向けさせるものである。その他にも、環境・知識・文化・社会状況・共に用いられる記号等のピクトグラム制作に必要な検討事項を挙げた。また、ピクトグラムは明瞭な解釈が必要であり、的確な場所・位置・大きさが必要である。

以上のような検討事項を踏まえ、今年度「海老、蟹、卵、小麦、蕎麦、ピーナッツ、牛乳、貝類、牛肉、豚肉、鳥肉、羊肉、オレンジ、りんご、桃、キノコ類、ガーリック、ゼラチン、アルコール類、豆類、魚、タコ」の特定7品目を含めた22品目を作成した。

今年度まで行った国際ピクトグラムの研究は今後論文にまとめて、IAUDの国際UD会議ほか、海外の学会にも提出する事を予定している。